

# Contents

- ・学会に向けて
- ・徳力賞受賞者から
- ・新評議員自己紹介
- ・Transmitter(essay)  
温故知新  
前程万里
- ・会員執筆論文紹介
- ・事務局から
- ・編集後記

# JSVN Letter

Volume 4  
March 1, 2020



## 学会に向けて

### 獣医神経病学会2020(沖縄大会)に向けて

大会長 鹿児島大学 大和 修

2020年度の獣医神経病学会を6月6日(土)～7日(日)の2日間にわたり、沖縄市町村自治会館にて開催させていただきます。本学会では、初めての九州・沖縄地区での開催になります。モノレール旭橋駅から徒歩3分と非常にアクセスの良い会場ですので、沖縄県内のみならず九州地区さらに全国各地から大勢の参加を期待しているところです。

本学会はこれまで主に東京および京都で開催されることが多く、また、内容的には獣医神経学ならびに実際の神経疾患症例の診療に強い興味をもった獣医師の先生が参加されることが多い傾向がありました。もちろん、関東・関西都市部のMRIを有する二次診療施設の獣医師の興味を満たすような内容を提供することも本学会の一つの特徴です。そのため、一部の内容が比較的高度ないし難解になることもあり、初学者の先生には少し気軽に立ち寄りにくい場所と感じさせてしまうこともあったように感じております。そのため近年では、その対応策として、初学者の興味を満たす基礎講演会も同時進行で提供していますので、誰もが安心して参加していただくことができる学会になっています。

さらに、今回は初めての沖縄開催であり、できるだけ多くの方に参加していただき神経病を広く学んでもらいたいという願いから、今回の教育講演においては特別の趣向を凝らしています。つまり、いつもは2～3の比較的先端的なトピックに焦点を当てる教育講演を、今回は本学会の中心的メンバーによるオムニバス方式で、できるだけ広いスペクトルの神経病の話題提供になるように構成しました。すなわち、初日には椎間板ヘルニアを中心に多様な「椎間板疾患」ならびに遺伝子疾患としては最も高頻度の「変性性脊髄症」に関する講演を、二日目には内科的的代表疾患である「てんかん」および脳外科領域として「脳腫瘍、画像診断」についての講演を提供します。臨床と研究の場で専門的に取り組んでいるそれぞれの分野の第一人者が、たくさんの症例の多彩なデータ(画像および動画)を駆使して、これら誰もが遭遇する主要かつ重要な神経疾患について詳細かつわかりやすく解説してくれます。今大会の教育講演は、まさに「The神経病学会」と言える内容になっています。

2020沖縄大会では、本学会の総力を挙げて「The神経病学会」を企画しましたので、奮ってご参加いただけますようよろしくお願い申し上げます。また、今回の企画に満足して頂けましたら、その後の本会にも継続的に参加して頂けますよう、あわせてお願い申し上げます。



# 獣医神経病学会2020

2020年6月6日(土)～7日(日)

## 会場

沖縄市町村自治会館

モノレール「旭橋駅」  
から徒歩3分

### 教育講演

6日 「椎間板疾患」  
「変性性脊髄症」

7日 「てんかん」  
「脳腫瘍、画像診断」

相川武  
神志那弘明、大和修  
齋藤弥代子、長谷川大輔  
北川勝人

一般演題 10題予定

基礎講習会 「脳疾患」3科目

問い合わせ先  
獣医神経病学会事務局  
〒180-8602 東京都武蔵野市境南町1-7-1  
日本獣医生命科学大学 獣医放射線学教室内  
E-mail: jimu@shinkei.com

## 徳力賞受賞者から

麻布大学 小動物外科学研究室 博士課程 平嶋洵也

この度は栄えある賞を頂戴し、身にあまる光栄と存じます。思い返せば学部6年次に人生初の学会発表をさせていただいたのも獣医神経病学会でした。緊張のあまり、マイクに自分の呼吸音が全て拾われてしまっていたというお恥ずかしい話も、今となっては良い思い出です。そんな自分にとって思い入れの深い獣医神経病学会にて今回徳力賞を頂けたことを大変嬉しく、また難治性てんかんに苦しむ愛犬とそのご家族の希望となりえる研究に携わらせていただいていることを誇りに思います。この受賞は私一人では到底なし得たものではなく、ひとえに学部生時代より長年に渡りご指導いただいております齋藤弥代子先生をはじめ、てんかん外科の発展にご尽力をいただいている諸先生方、研究を手伝ってくださっている室生の皆様の恩恵でございます。改めて心より御礼を申し上げます。今後も神経病学に対する勉強を継続し、臨床・研究ともに一層精進していく所存でございます。今後ともよろしくお願い申し上げます。



日本で初めて迷走神経刺激療法を実施した症例との写真。症例を抱えている筆者の左が齋藤弥代子先生。

## 新評議員あいさつ 第4回



桑原動物病院 院長 桑原孝幸

皆様こんにちは。上州北関東の群馬県で神経病診療を開拓している桑原孝幸です。この度は、獣医神経病学会評議員の末席に加えて頂き光栄に存じます。私は日本獣医生命科学大学を卒業し、同大学大学院博士課程へと進み、織間博光名誉教授ならびに長谷川大輔教授にご指導を受け、「てんかん原性焦点診断における臨床的・

基礎的研究ならびに新規てんかんモデル動物の開発」をテーマに研究しておりました。恩師の長谷川教授から、研究に対する姿勢や洞察力、科学者に必要な問題解決能力、論理の展開方法など非常に多くの事を学ばせていただき、とても贅沢な時間を過ごすことができました。その後、静岡県島田市の渡辺動物病院に勤務させていただき、渡辺直之先生、國谷貴司先生から実臨床の厳しさや「No Guts, No Glory」精神を学びました。静岡での経験は、私の臨床の柱となって毎日の診療を支えてくれています。現在は、地元に戻り、小動物のてんかんや神経病診療を行っております。最近では奥野征一先生が身近におられることで、群馬県の神経病レベルがより一層上がってきました。今後は日本列島のほぼ中央に位置する群馬県から情報発信していけるよう、微力ながら貢献したいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

# 温故知新

「グランドスラム」  
中山正成

中山獣医科病院会長・奈良県  
獣医神経病学会名誉会員  
動物臨床医学会名誉会員



日本獣医師会獣医学術賞には三つの賞がある。その内「獣医学術奨励賞」は、日本獣医師会雑誌に2年間掲載された論文の中から選出される。「獣医学術学会賞」は、地区学会で口頭発表して会長賞を受賞した演題を、日本獣医師会獣医学術年次学会で再度口頭発表し、トップで選出された者に与えられる。さらに、「獣医学術功労賞」は、獣医学術の向上、普及に貢献し、推薦された者の中から、選考委員会において選出される。

私は、2014年「獣医学術功労賞」—犬猫の脊椎・脊髄疾患の診断・治療と普及—を受賞して、三つの賞を頂いたことになる。おまけと言ってはいけないと思うが、2018年には「獣医学術奨励賞」—小型犬の頸部圧迫性脊髄症における動的病変の臨床学的特徴—を二回目の受賞をした。これは、テニスなどのスポーツの世界で言われる、いわゆる「グランドスラム」を達成したことになる。

1994年に「獣医学術奨励賞」を受賞した演題は—犬ライム病の研究—であり、すべて神経病がテーマの研究であった。

私の弟子は、約80名いるが、常に学術発表を行うことを指導している。その結果、博士号の取得者は9名、大学教官は7名いる。

臨床をしながら、学会発表、論文を書くと言うことは大変だが、病気の理解、頭の整理、深く勉強する、さらに新しい発見につながる。

私は、これまで数々の学会発表、特許取得を行ってきた。71歳になった今もアイデア、ひらめきを考えることは大いなる楽しみの一つになっている。

今後とも精進していきたいと思う。

## Transmitter 第4回

# 前程万里

『細胞から愛する』  
小島結

岐阜大学応用生物科学部共同獣医学科

私は無類の動物好きだ。子供の頃から犬やうさぎ、亀、インコ、カブトムシといった動物たちをかわいがってきた。そして、今では好きが高じて(?)細胞を慈しんでいる。

現在、私は大学に所属し動物の神経疾患に関する研究を行なっているが、その実験の中で多種の動物細胞を培養することが間々ある。特にお気に入りが単球である。

単球は、血液から分離してきた直後はまん丸な形をしているが、マクロファージへと変化させる途中で、足を伸ばして必死にキュッとフラスコの底にしがみつく。なんだか…かわいい。細胞をかわいいと思うなんて、初めは恥ずかしかったが、ヒトのiPS細胞研究者もiPS細胞のことをかわいいと言っていた。そうか、Kawaiiという言葉は世界に広がっていると聞いてはいたが、どうやら研究者の間でも広がっていたらしい。そこからは、恥ずかしげもなく、細胞のことをかわいいと堂々と公言するようになっている。

こうしたかわいい細胞たちから、動物が形づくられていると思うと、より愛さずにはいられない。平日に細胞の世話をしつつ、犬猫の診療を行い、休日は動物園や水族館へと足を運ぶ。無類の動物好きにとっては、充実した毎日である。



学生が撮影してくれたマクロファージの写真。かわいく撮れたねと褒めたのだが、学生は不思議そうな顔をしていた。

## 会員の先生方の掲載論文(2019年:国際誌)

### 【変性疾患】

- Nakata K, Heishima K, Sakai H, Yamato O, Furusawa Y, Nishida H, Maeda S, Kamishina H. Plasma microRNA miR-26b as a potential diagnostic biomarker of degenerative myelopathy in Pembroke welsh corgis. *BMC Vet Res.* 2019; 15: 192.
- Ozawa M, Inoue M, Uchida K, Chambers JK, Takeuchi Y, Nakayama H. Physical signs of canine cognitive dysfunction. *J Vet Med Sci.* 2019; 81: 1829-1834.

### 【腫瘍】

- Ishino H, Takekoshi S, Teshima T, Uchida K, Sakonju I, Hara Y. Hyperadrenocorticism caused by a pituitary ganglioglioma in a dog. *Vet Pathol.* 2019; 56: 609-613.
- Mori M, Izawa T, Sasaki H, Sonoyama J, Nishimura S, Shimamura S, Shimada T, Hasegawa T, Kuwamura M, and Yamate J. A feline case of T-cell lymphoma with tropism for the striated muscle and peripheral nerve. *J Comp Pathol.* 2019; 168: 8-12.
- Kutara K, Maeta N, Kanda T, Ohnishi A, Mitsui I, Miyabe M, Shimizu Y, Okamura Y. Magnetic resonance imaging findings of an intradural extramedullary hemangiosarcoma in a dog. *J Vet Med Sci.* 2019; 81: 1527-1532.
- Nishida H, Yamazaki M, Sakai H, Maeda S, Kamishina H. Intracranial ectopic choroid plexus cyst in a dog. *J Vet Med Sci.* 2019; 81: 365-368.
- Seki S, Teshima K, Ito D, Kitagawa M, Yamaya Y. Impact of intracranial hypertension on the short-term prognosis in dogs undergoing brain tumor surgery. *J Vet Med Sci.* 2019; 81: 1205-1210.
- Okabayashi K, Narita T, Takashiro S, Nadaoka S, Kanai S, Ito D, Kitagawa M. mRNA expression of tumor-associated genes in canine grade I meningiomas. *J Vet Med Sci.* 2019; 81:369-372.

### 【てんかん】

- Ogawa F, Hasegawa D, Mizoguchi S, Yonezawa T, Matsuki N. Excitatory and inhibitory amino acids in cerebrospinal fluid of familial spontaneous epileptic cats. *J Vet Sci Med Diagn.* 2019; 8: 1.
- Charalambous M, Volk HA, Tipold A, Erath J, Huenerfauth E, Gallucci A, Gandini G, Hasegawa D, Pancotto T, Rossmeisl JH, Platt S, De Risio L, Coates JR, Musteata M, Tirrito F, Cozzi F, Parcarelli L, Carlazzoli D, Cappello R, Vanhaesebrouck, Broecks BJG, Van Ham L, Bhatti SFM. Comparison of intranasal versus intravenous midazolam for management of status epilepticus in dogs: A multi-center randomized parallel group clinical study. *J Vet Intern Med.* 2019; 33: 2709-2717.
- Utsugi S, Saito M, Sato T, Kunimi M. Relationship between interictal epileptiform discharges under medetomidine sedation and clinical seizures in canine idiopathic epilepsy. *Vet Rec.* 2019; vetrec-2018-104947.
- Ishikawa C, Ito D, Tanaka N, Kitagawa M. Use of three-dimensional time-of-flight magnetic resonance angiography at 1.5 Tesla to evaluate the intracranial arteries of 39 dogs with idiopathic epilepsy. *Am J Vet Res.* 2019; 80: 480-489.

### 【炎症性】

- Hasegawa D, Ohnishi Y, Koyama E, Matsunaga S, Ohtani S, Nakanishi A, Shiga T, Chambers JK, Uchida K, Yokoi N, Fukata Y, Fukata M. Deleted in colorectal cancer (netrin-1 receptor) antibodies and limbic encephalitis in a cat with hippocampal necrosis. *J Vet Intern Med.* 2019; 33: 1440-1445.

## 【脊髄・脊椎】

- Fumitaka Takahashi, Shigenori Kouno, Shinya Yamaguchi, and Yasushi Hara. Evaluation of atlantooccipital overlapping and cerebral ventricle size in dogs with atlantoaxial instability. *J Vet Med Sci.* 2019; 81: 229-236.
- Aikawa T, Miyazaki Y, Shimatsu T. Hemilaminectomy, diverticular marsupialization and vertebral stabilization for thoracolumbar spinal arachnoid diverticula in five dogs. *J Am Anim Hosp Assoc.* 2019; 55:110-116.
- Schmidli FE, Stein VM, Aikawa T, Boudrieau RJ, Jeandel A, Jeffery N, Jurina K, Moissonnier P, Rupp S, Vidondo B, Forterre F. Fractures of the second cervical vertebra in 66 dogs and 3 cats: a retrospective study. *Vet Comp Orthop Traumatol.* 2019; 32: 200-206.
- Nishida H, Nakata K, Maeda S, Kamishina H. Prevalence and pattern of thoracolumbar caudal articular process anomalies and intervertebral disk herniations in pugs. *J Vet Med Sci.* 2019; 81: 906-910.
- Kamishina H, Sugawara T, Nakata K, Nishida H, Yada N, Fujioka T, Nagata Y, Doi A, Konno N, Uchida F, Maeda S. Clinical application of 3D printing technology to the surgical treatment of atlantoaxial subluxation in small breed dogs. *PLoS One.* 2019; 14: e0216445.
- Fujioka T, Nakata K, Nishida H, Sugawara T, Konno N, Maeda S, Kamishina H. A novel patient-specific drill guide template for stabilization of thoracolumbar vertebrae of dogs: cadaveric study and clinical cases. *Vet Surg.* 2019; 48: 336-342.

## 【疾患分類】

- Nakamoto Y, Uemura T, Hasegawa H, Nakamoto M, Ozawa T. Feline neurological diseases in a veterinary neurology referral hospital population in Japan. *J Vet Med Sci.* 2019; 81: 879-885.

## 【再生】

- Ito D, Carwardine D, Prager J, Wong LF, Kitagawa M, Jeffery N, Granger N. Methods of olfactory ensheathing cell harvesting from the olfactory mucosa in dogs. *PLoS One.* 2019; 14: e0213252.

## 事務局から

- 獣医神経病学会2020の一般演題募集を開始しました。締め切りは4月9日(木)です。詳細はホームページをご覧ください。
- 2020年2月23日(日)に第16回内科学アカデミー内にて基礎講習プログラム8「脳脊髄液検査」を行います。講師は麻布大学の斎藤弥代子先生です。まだ、受けられていない先生は是非ご参加ください。

## 編集後記

6月の沖縄は梅雨時で天気が少し心配ですが、沖縄初開催を楽しみたいと思います。会員の先生方の積極的な論文投稿に敬意を評します。またご執筆いただいた内容も個性的で、楽しく編集させていただきました。今後もより良く磨きをかけて参りたいと思いますので、会員の皆様方におかれましては忌憚のないご意見をいただければ幸いです。宜しくお願い致します。

編集長: 宇塚雄次

編集委員: 宇津木真一 小澤剛 チェンバース・ジェームス 和田昌絵

ご意見窓口: 小澤 (ozvet@k9.dion.ne.jp)